



ルーテル 藤が丘だより

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会
〒 227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 牧師 佐藤和宏
tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp
発行 月報編集委員会 発行日 2018年9月2日 No. 52



礼拝献花より

むしろ、愛に根ざして真理を語り、
あらゆる面で、頭であるキリスト
に向かって成長していきます。

エフェソの信徒への手紙 4章 15節



シリーズ説教

『愛に根ざして』

牧師 佐藤和宏

マルコ6章45節～52節

数年前のことになりますが、ふと個人的に自分の年間聖句を決めようと思いたち、イザヤ書55章の御言葉を選んで、一年を過ごしたことがありました。それは次のような言葉になります。

「天が地を高く超えているように／わたしの道は、あなたたちの道を／わたしの思いは／あなたたちの思いを、高く超えている」。

預言者イザヤを通して告げられるように、主の御心は確かに私たちの思いを高く超えています。私たちの思いを高く超えていると言うのですから、私たちは神の御心を確実に理解し、常に正確に受け入れることなど、到底できることではないにちがいありません。少しも理解することなどできない。これが真実なのでしょう。ところが、私たちは時に高く超えているはずの神の御心を、自分の経験、知識、常識といった狭い範囲で、

受け止めることができるかのようにふるまってしまうのです。その取るに足りない私たちの認識の中に、私たちの思いを超えた神の御心を無理やり押し込めて、わかつたつもりになっってしまうのです。

さて、福音の日課に目を向けてまいります。主イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へと向かわせ、ご自身は群衆を解散させ、一人祈るために山へ行かれました。「強いて舟に乗せた」主イエスの思いは、弟子たちの思いを高く超えていましたから、その理由を誰も知ることはできなかったでしょう。辛い経験や困難に直面したとき、人はそこに神の御心を見いだすことができずに思い悩むことでしょう。しかし、時が過ぎて振り返るときに、その辛さや困難の中にあつた神の御心を知ることができるとです。

よく人生を大海原に船を漕ぎだすようなものと譬えることがあります。まさに逆風のために漕ぎ悩んでいた弟子たちの姿は、人がそれぞれの人生で経験する困難に直面したときのようなものであると言えるでしょう。自分ではどうすることも出来ない困

難に直面するとき、人は神を見失ってしまうことがあるでしょう。人生における不条理にもみえる出来事の前に、人は受け入れることができず、苦しむことがあるでしょう。大きな災害によってたくさんの方々の命が奪われる現実を前に、神はおられないと結論づけたくなる時があるでしょう。しかし人生において、私たちがどうすることもできないような困難に直面したり、試練と思えるような辛い経験をしたりすることがあるのは、そこに神がおられないからなのではありません。そうではなく、そこに私たちの思いを高く超えた神の御心があるということなのです。つまり、人は困難に直面したからこそ、逆風の中で自分たちに出会われる主イエスを知るのである。イエスが彼らを強いて舟に乗せた理由は、ここに隠されていたと言えるでしょう。

私たちは毎日の生活が、穏やかで困難に遭わないことを望みます。また、信仰によってそのような平和を確保したいと期待するでしょう。しかし、信仰を持つ者も持たない者も、変わらず逆風に遭うような経験をそ

れぞれの人生においてするのは、私たちにとって大切なことは、逆風に遭わない人生を望むことではなく、逆風の中でこそ、悩み苦しむ私たちの現実の中に来て、出会ってくださる主を待ち望んで生きるということなのです。

今日聖書は、「愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい」と教えています。つまり、聖書が示しているのは、神の平和とは世の中がおだやかであることでも、心配や揉め事がないことでもなく、愛であるキリストに根ざして、キリストにあつて神の平和に結ばれて生きることにほかならないのです。愛であるキリストに根ざし、キリストに結ばれて生きるならば、たとえ逆風の中に置かれたように思える人生の困難や危機にあつても、その私たちが決して見捨てず、共にいてくださる主を知って、私たちは安心して生きることができるとです。これが、今日、聖書が、逆風に漕ぎ悩むことがある私たちに語りかける、人の思いを超えた神の御心、福音なのです。

(聖霊降臨後第14主日)

■受洗おめでとぅございます。

8月26日(日) 礼拝にて、○田○子さん(○田由○子さんのお母様)の洗礼式が執り行われました。

中学生の頃に教会へ行かれていましたが、あることから遠ざかっておられたそうです。しかし今回、このように洗礼を受けるときが与えられました。時を超えて働かれる神は、最も良いときを備えてくださったのだと思います。

3月下旬より準備を始めました



が、主に由○子さんが同席くださり、

また由○子さんが同席できない時には、お孫さんの沙○子さん、○志さんが同席されるなど、教会から遠ざかっていたお二人が○子さんに引張られるかのように礼拝に来られました。洗礼式の当日も、皆さんで出席されましたし、ご主人の○郎さんもジャカルタで、礼拝ライブ中継によつて参加されていたようです。

本当に嬉しいときでした。どうぞ○田○子さんのこれからの信仰生活と○田さんご家族のために、お祈りください。

■教会の動向



■8月の教会

55日の礼拝前に洗礼準備会がありました。礼拝は、平和主日として守られ、聖歌隊の奉仕がありました。また、子どもメッセージ、聖餐式がありました。8日予定されていたお仕事会は、台風接近のため中止となりました。9日、佐藤牧師は信徒訪問をいたしました。

12日礼拝前に洗礼準備会がありました。礼拝後、バザー委員会が開かれ、委員長に○木○和さんが選出されました。16日には、6月に召天された○岡○さんの納骨の祈りが執り行われました。また、佐藤牧師は信徒訪問をしました。

19日礼拝後、宣教35年記念誌委員会が開かれ、名称を「日本福音ルーテル藤が丘教会 宣教35年のあゆみ」とすることにいたしました。また、藤が丘教会の歴史に伴われた歴代牧師をはじめ、諸先輩方数人に原稿を依頼すること、役割分担等を確認しました。23、24日の両日、森○○一郎さんのご葬儀が執り行われました。

26日の礼拝では、○田○子さんの

洗礼式が執り行われました。礼拝に引き続いて、「共に生きる」のスピールがありました。その後、伝道支援金委員会が開かれ、2019年度の内容等について話し合われました。また、16日より横須賀教会にて、城南神奈川地区会が開かれました。さらに地区会終了後、アネモス群の方々と17日に開催予定の合同修養会について協議しました。

礼拝に初めてのお越しは、赤○美○梨さん、松澤○子さん、○藤淑子さん、原○子さん、松○良○夫さん(松○良節子さんのご子息)、西○○仁くん、明○ちゃん(○藤真○さんのお孫さん)でした。主の祝福をお祈りします。

■牧師室より

17日の祝日、アネモス群(小田原、湯河原、大岡山、藤が丘)合同修養会が、藤が丘教会にて開かれます。「性的少数者と教会」について、日本基督教団川和教会牧師の平良愛香先生をお迎えします。会場教会でもありますので、ご参加いただき、皆さんを歓迎いたします。 (佐藤)